

ヴァイオリニスト TAIRIK の戯言

〔第64回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

✦ 文 佐田大陸 text by Tairik Sada ✦

年月で変わるもの、変わらないもの
14年前に演奏活動を始めた時、まだまだ曲間にマイクを持って喋る人は少数派でした。LIVEに行くのとトークがあるのが当たり前ですが、クラシック界隈ではそれを邪道、御法度とするような風潮がありました。

僕らがよく演奏しているような、クロソーパーな音楽を1曲でもやろうものなら、純粋なクラシックのみを演奏する人からは「ああ、そっちの世界に行ってしまったのね」と言われるし、トークをすれば、より違ったジャンルの人としてレッテルを貼られる。ただ、ここ10年で時代は大きく変わりました。

クラシックの演奏会でも喋るのは当たり前になりました。
リサイトを頼まれる時に「トーク付きで」とお願いされるようなこともあります。時代の変化を感じるこの頃。
ガチガチのクラシックを学んでいる芸大や桐朋の学生の中にも、YouTubeや、LIVE配信アプリ等を駆使している人は少なからずいます。

日本において、ポピュラー音楽とクラシックの垣根はかなり曖昧になったように感じます。

また、以前は実力だけが評価の対象だったものが、その人のルックス、言動、人間性、その他の要素、タイトルで支持が集まるようになりました。
自分たちも、一人間として応援して

くださるファンの皆さまがいるお陰で活動できています。

ただ、実力は確かなはずなのに、お客さんが入らない、という残念な現象もあります。

国際コンクールの覇者の客席がガラガラ、なんてこともよくある光景です。一部を除いて、もはやネームバリューも昔ほどは輝きを失いつつあります。

自分も日々「もっと上手になりたい」という思いで音楽に臨んでいるので、そこには少々複雑な思いがあります。

実力だけで、どうにかなるわけではないけど、長く活動するにはそれは不可欠。

そしてそこに至るまでの適切な努力がなければスタートラインにすら立てない。運も引き寄せなければならぬ。そんな不安定な茨の道を選んだことを思い知らされる数年間。

TSUKEMENは先日結成14年目を迎えて、15年目に入りました。一人の人間が高校生になるのと同じ年月を過ごしたと思うと、なかなかの歳月を感じます。

月日の経過とともに刻々と変わっていく、自分たちの内面と、世の中との交差点。

帰り道に扉を笑顔で出て欲しいという変わらない願い。

自分に与えられたフィールドで最善を尽くし、最高に人生を楽しんでいきたいなと思う、今日この頃です。

profile

TAIRIK (たいりく) Violinist/Violist/Composer
長野県諏訪市出身。桐朋学園大学音楽学部、同大学院修了。
2008年12月にヴァイオリン & ピアノによる3人組インスト・ユニット「TSUKEMEN」を結成。2010年3月にメジャーデビュー。デビューから500本を超える公演を開催し、現在までに40万人以上の観客を動員。LIVE活動は日本国内にとどまらず、アメリカ、アジア、ヨーロッパに及ぶ。最新アルバム「HAPPY キッチン」など、リリースしたCDはクラシック・チャート1位を次々と獲得。
コンサート、作曲活動の他、「徹子の部屋」「題名のない音楽会」等数多くのTV番組に出演。2021年より、NHKきょうの料理「栗原はるみのキッチン日和」にてパートナーとしてレギュラー出演中。https://www.tsukemen3.jp

